



「不屈」

No.569 付録
高知版No.414
2021.11.15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
高知県本部

発行責任者
森岡 幸一
TEL・FAX
088-841-0072

幸徳秋水生誕150年記念「非戦の碑」除幕式

森田 雄介

10月31日の衆議院選挙
投開票日から3日、社会変革
の期待があっただけに選挙の
結果に打ちひしがれた思いを
カラ元気で立て直している最
中、幸徳秋水生誕150年記
念、「非戦の碑」除幕式と記念
講演へ参加すべく四万十市へ
向かいました。同行は事務局
長森岡さん、龍馬の生まれた
まち記念館学芸員の森本さん、
筆者とその父の4人でした。

非戦の碑が建てられた正福
寺は、高知地方検察庁中村支
部の隣にあります。戦後間も
ない時期には、秋水のことを
語りにくい空気が残っていた
と言います。今日の形がある
のは正福寺ご住職のご尽力な
くてはなし得なかったと、幸
徳秋水を検証する会の事務局

長田中全さんからの紹介があ
りました。

除幕式には130人が参加
と新聞報道にありました。記
念講演の講師である「大逆事
件の真実を明らかにする会」
事務局長の山泉進さん、四万
十市中平正宏市長、「森近運平
を語る会」会長の森山誠一さ
ん、「菅野寿賀子を検証し名誉
回復を求める会」事務局長の
上山慧さん、「大逆事件を明ら
かにする兵庫の会」代表世話
人の津野公男さん、幸徳家代
表の幸徳正夫さんなど、
全国各地から、権力の乱用を
許さず秋水の功績を広く顕彰
を願う方々が集まっており、
祝辞が述べられました。
記念講演では、非戦の碑に
刻まれた「吾人は飽くまで戦

争を非認す・・・」の原文を時代背景とともに解説、秋水の思考の背景にも迫りました。私が関心を持ったのは、トルストイやガンジー、のちの時代のキング牧師などと比べ、信仰が基になつていない部分で、より社会や資本主義・帝国主義の構造を読み解く思考・論説方法を用いたこと。このことによつて格差や貧困の広がり、非戦とあるべき社会の姿を書き記したことが世界的にも評価されていると解説であります。

自分自身にもあるなど共感するの、権利の自覚と主張も大事だが、その前提としての社会の構造理解を欲しているという、秋水にもそのような感覚があつたのではと想像を膨らませたことでした。



故 猪野 睦氏 作品

埋もれてきた群像より
「慕進」二

12月幹事会

12月11日(土)

14時

草の家

『慕進』第二巻第三号は四月二十五日合併号として四月二十九日発行であるが、表紙には「納本不足」「要注意」「内務省8・5・23正本」のゴム印がある。「禁止可然哉」のかき込みがある。表紙はソビエト同盟武装兵士を、銃剣をもつた多くの列強ブルジョアジー、軍隊がとりかこんでいる図をあしらひ「四・五月合併号発禁に備へろ！」と刷りこんだ。

この三号の巻頭言は「桜の花が咲いて散らうとしてゐる。我が高知県下の作家同盟員サークル員其の他一般文芸愛好家及び勤労無産大衆の恨みの日として忘れることの出来ない四月二十日がやってきた」のかきだしで、前年四月二十

一日の一斉検挙までの成果と、その後の高知の状況にふれた。つづけて「合法団体である文化諸団体に対し破廉恥な逆宣伝と暴力を下し、非合法下に追ひ込まんとした支配者の本当の姿を知る為には、当時の満州戦争と切り離して考へてはならない」とかき、メーデー参加を訴え、「文学運動の発展拡大万才！」とむすんだ。「メーデーの話」、「農民文学について」を加え、浜田孝二の詩「兵士を迎へる」、渡川專太の詩「木原よ！」をのせた。

浜田孝二の詩「兵士を迎へる」は、幡多路へ演習で行軍してくる四十四聯隊兵士に「兄弟を×すな！同志打ちをするな！Kよ！」北中国に燃える××帝国主義の砲火は、北へ北へと拡がる。兵上達よ。君達は軍服を着た労働者農民！」と呼びかけていく詩であり、渡川專太の詩「木原よ！」は「一九三二・四・二一事件でやられた木原にささげる」

詩で牢獄にいる木原に、やられた組織はたちなおっている「お前への復讐は進んでゐる」「俺達はお前へのしかへしのために仇もの お前への敵打とは ソヴェート××の建設だ！」と真正面からたち向かつた詩であつた。

さいこの号となる第二巻第四号は、昭和八年六月一日印刷納本、六月八日発行だつた。表紙にカール・マルクスの顔をのせ、「萬国の労働者団結せよ！」、幡多地区機関誌日本プロレタリア作家同盟高知支部と刷りこんだ。その表紙も「内務省昭和8・6・6禁止第1950号」「要調査」「折込個所ノ記事及全般ノ傾向ニ鑑ミ禁止可然」「6・6決電報済」の内務省検閲発禁過程のわかるものだった。

この号の巻頭言にあたるところで「我が幡多地区機関誌は創刊(九月)以来」「諸君と共に第八号(第二巻第四号)にまで進んできた。その紙数

部数等に於いても、地区機関誌として他支部地区に向け誇るに足るものと確信してゐる」「機関誌『慕進』発展万才！ナルプ高知支部幡多地区の旗の下に！」とかいていくが、発禁続きに加えて、配付網にも困難が生じてきていた。「文新読者並びに取次者諸君に訴ふ」のなかに「取次所は無料で配付する為に出来たのではない。敵の攻撃をさける為、敏速に安全に配付する為に出来たものである」とかかねばならなかつた。『文学新聞』配付も『慕進』配付とともに乱れた状況がよみとれてくるが、そうしたなかで、「クワイメツ」した高知支部を幡多地区で再建していくための組織問題に重点をおいたような号であつた。

作品では浜田孝二の失業救済工事をあつかつた詩「工事場で」、内容から浜田初広と推定される島昂吉の小説「土方」、萩野哲二の戯曲「その後に来

るもの」第四幕がのつた。

この第二巻第四号の発行から1ヵ月後の七月七日、一斉検挙された。これについて当時の「朝日新聞高知版」七月九日付は、中村署は多数検挙したが、「一味は日本プロレタリア作家同盟幡多地区委員会を組織」していたとかいた。組織は「全幡下」に拡がつていた。

10月幹事会報告

- ☆同盟員 263名
- 1名入会です。
- ☆署名 個人(62筆) 団体(12筆)

☆地方自治体意見書検討会議 担当・徳弘

採択自治体の状況、(南国市、安芸市)は否決。

検討自治体を元極め11月に現地調査に入ります。

☆女性部・青年部 (青年部)

11月3日 秋水・非戦碑除幕式に参加しました。現地からの報告は森田部長が投稿しています。

尚、DVDを取っていますので今後、学習等の企画を計画するそうです。



女性部の広場

田中玲子

先日、大橋通の中納言の前を通りかかると、「本日は十三夜、月見団子をどうぞ」の張り紙が。

最近、コロナのせいもあり、月数日のアルバイトや買い物以外は外に出るのが億劫になっている。家の中ばかりになると体がアチコチ痛くて足も動かず、宅配便が来てもすぐには立ち上がれない。孫の保育園への送り迎えでもあればもう少し歩く機会があるが、小学校に上がると帰宅時間が早くなりその時間には家にいなくてはならない。

しかしながら、こんな時でも私に何かと用事を言いつけ、食事に誘ってくれる奇特な友がいる。おかげでお誘いに乗るときはさほど体も痛くなく、さつさと歩いてしまう。その友人は俳人であり、茶を点て花を活け山を歩き、ワインをこよなく愛する人で、全く自分と違うので尊敬する。

の運動もちゃんやれという天の声も聞こえる)

伊藤千代子映画製作ニュース

歴史的映画撮影開始へ

5回の治安維持法弾圧を受けた旧制松本高校から

伊藤千代子の生涯を描いた

映画『わが青春つきるとも』伊藤千代子の生涯』が10月11日、郷里の長野県でクラインクインしました。各地の国賠同盟組織が、受入れやエキストラ応募などで協力しています。同盟チームは、現地ロケの状況を記録し残すために、「映像メイキング」チームを現地に派遣しています。メガホンをとるのは、『校庭に東風吹いて』『アンダンテ稲の旋律』など秀作を世に手掛けてきた社会派の桂荘三郎監督。原作

は『増補新版 時代の証言者 伊藤千代子』(藤田廣登著・学習の友社)。来年6月全国公開めざしています。

署名返信へのお礼

昨年の教訓から、会員一人々の方に署名をお願いする事を行いました。返信数は20通を超えています。有難うございます。

請願はコロナ感染状況によりますが、来年の国会請願に向けて集めて行きたいと考えています。自宅に用紙を残している方は是非届けてください。衆議院選挙は政権交代を掲げて戦いましたが、残念な結果となりました。改憲勢力が参議院選挙と合わせて国民投票を行う言動も出ています。改憲勢力との戦いは続きます。草の根から反撃する為にも署名を通して平和を訴えて行きたいと考えます。